



Q 拉致問題について、湯沢学園ではどのように教育しているかを伺う

& 宮田 真理子 (文責)



A 風化しないようにするため指導を継続して行う

質問 拉致被害については決して風化させてはならない、忘れてはならない問題である。

広島市教育委員会では「社会」「道徳」「総合的な学習」で拉致問題を取り上げることができるよう指導案の作成をしている。家庭環境の児童生徒への配慮や、北朝鮮当局による人権侵害であるため、北朝鮮の人々に責任がないこと、日本で生活する北朝鮮につながらりがある人々の責任がないことを押さえて、新たな偏見差別を生み出させないように配慮することとしている。

新潟県ではどうか。湯沢学園で拉致問題について取り上げて学習しているか現状をうかがう。アニメ「めぐみ」や政府から出されている冊子を活用しているか。また、今後の予定はどうか。

政府の拉致対策本部も各種の啓発活動をしている。毎年行われている「北朝鮮人権侵害問題啓発週間・作文コンクール」では毎年応募数が増えているという。

教育長の拉致問題についてのお考え、お気持ちを伺いたい。

長井 教育答 新潟県教育委員会では、北朝鮮当局による日本人拉致問題学習資料集を作成し、小中高の指導例を掲載している。湯沢学園でも、それらの資料に基づき、アニメ「めぐみ」を視聴し、拉致がどのような権利を侵害しているかについて考えることを通して、拉致問題が解決すべき重大な人権侵害で人権問題であることを理解させる授業を実施したり、啓発資料などを配布したりしている。

私自身、横田めぐみさんと同年代であり、大学時代や、初めて勤務した場所が新潟市であったことから大変身近に感じていた。教員時代も新潟県固有の人権問題の一つとして拉致の被害があったという事実を子どもたちに

伝え、一緒に考えてきたことでもある。拉致被害者の即時帰国を含めた早急な解決を願っている。

学校教育において拉致問題に対する理解を深める取り組みを推進することは重要な一歩であると考えている。児童生徒が拉致問題に関心をもちつづけ、風化しないようにするため指導を継続して行う必要があると考えている。

